

企画セッション「学生による学生のためのセミナー体験」概要
Outline of Organized Session titled by “Group discussion by the young fellows, for the young fellows”

浅田洋平*, ○辰野宇大*, 大山幸輝**, 松田壮顕***, 鈴木友志***, 加藤 諭**

Yohei ASADA, ○Takahiro TATSUNO, Koki OYAMA, Soken MATSUDA, Yushi SUZUKI, Satoshi KATO

1. 本セッションの趣旨, 目的 学会における若手の発表, 議論の場としてスチューデントセッションやサマーセミナーが挙げられる。しかし, 学会経験の少ない若手会員が研究発表以外のテーマで気軽に参加でき, 積極的に議論を行える場も必要である。本企画では 2019 年のサマーセミナーの報告やその議題である「農業農村工学の魅力」に対するディスカッションを会場内で行い, 若手会員間の活発な議論や農業農村工学分野 (NN 分野) への意識の向上に資することを目的とする。

2. 本セッションの概要 本セッションの内容及び流れを Table 1 に示す。最初に前年のサマーセミナー代表者の大山の方からサマーセミナー2019 の報告を行う。学会にお

Table 1 本セッションの内容及び行程
 Contents and schedule of Organized Session13

行程	時間総計	時間小計	内容
			サマーセミナー2019の報告とご講演
1	15	15	①サマーセミナー2019の報告 (5分) ②学会での若手の集まりに関して先輩方2名による講演 (5分×2)
2	25	10	企画セッションの趣旨, 行程の説明 同時に来場者に会場で配布した自己紹介シートを記入してもらう。
			グループワーク① (ブレインストーミング&KJ法による意見出し)
3	75	50	5人程度からなるグループを作り, 各班でディスカッションを行う。 ・グループワークの進行 (カッコ内の時間は目安) ①自己紹介シートを用いたグループ間の自己紹介 (5分) ②農業農村工学分野の魅力についての意見を出し, 付箋に書いてポスター用紙に張っていく (ブレインストーミング法)。 (25分) ③意見の共通点を考え, 類似した意見をまとめる (KJ法) (20分)
			ディスカッション内容の発表
4	95	20	①全体で2つほどグループを選び, 各グループのディスカッションの内容についてセッションの参加者全体に向けて発表 (4分×2組) ②発表に対して他のグループからの意見出しや質疑応答 (4分×2組)
5	100	5	全体のまとめ (オーガナイザー) とアンケート記入

* 東京大学大学院農学生命科学研究科, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, ** 鳥取大学大学院連合農学研究科, The United Graduate School of Agricultural Sciences, Tottori University, *** 京都大学大学院農学研究科, Graduate School of Agriculture, Kyoto University
 キーワード: 農業農村工学, 広報, 若手交流, サマーセミナー

ける若手の集まりに関するご講演には、大阪府立大学の中桐貴生先生、三祐コンサルタントの崎川和起氏にそれぞれ「NN学会の若手の集いに参加することの意義」、「サマーセミナーに参加するメリット」というタイトルで発表していただく予定である。講演後、本セッションのメインである学生同士のディスカッションを執り行う予定である。以下に、その概要説明を示す。

2.1 自己紹介 参加者は5名ほどのグループに分かれて、あらかじめ書いて頂いた自己紹介シートをもとに、グループのメンバー間で自己紹介を行う。自己紹介シートの内容は、氏名、所属、専門分野、研究題目、自分が思うNN分野の魅力、卒業後の進路（農業農村工学分野に関連する業種に残るかどうかなど）である。この後のディスカッションを円滑に進める軸となるので、遠慮せず積極的に発言して頂きたい。

2.2 ディスカッション 自己紹介後はテーマである「農業農村工学の魅力」についてグループごとにディスカッションを行う。今回、ディスカッションの手法としてブレインストーミングを用いる。この手法は、集団でアイデアを出すことで互いに刺激しあい、その場で創造的なアイデアを生むのが目的であり、以下の4つの留意点がある。①アイデアの正否を気にすることなく議論を進めていく。②ユニークな考えをグループ全体で歓迎する。③質より量を重視する。④相手のアイデアに関連させて新しいアイデアを考えてみる。以上の点を守りながら、「農業農村工学の魅力」について意見を出していき、出た意見は用意された付箋に書き込んで、ポスター用紙に貼っていく。また、「魅力」に関する意見だけではなく、「魅力がない」と思う場合は、その理由について意見を出すことも可能である。「農業農村工学における魅力の有無」に対して結論を求めるのではなく自由な発想で意見を出してもらいたい。ある程度、意見が出たらKJ法を用いて、意見の整理を行う。KJ法とは、ブレインストーミングで出たアイデアを全体的な視点から整理することで新しい着想やアイデアを得るための手法である²⁾。KJ法によって行うことは主に以下のとおりである。まず、意見の書かれた付箋をカテゴリ別でまとめてグループ分けをしていきタイトルをつける。グループ分けされたまとまりを意味合いの近いもの同士を近くに集めるように配置を変えていく。最後に各グループの関係性を文章で表す。こうすることで、思い付きで出した意見を整理したものを可視化し、グループで共有できるというメリットがある。

3. 本セッションの参加について ディスカッションで重要となるファシリテーターについては、各グループに一人以上、本セッションの幹事が務めるため、ディスカッション初心者の方でも安心して参加していただけます。学生、若手研究者はもちろん、教員の方もお時間があればぜひ参加していただき、グループワークにオブザーバーという形でディスカッションをサポートしていただければ幸いです。本セッションで、普段知ることがなかった「農業農村工学」の魅力を含めた全体像について参加者それぞれが感じ取っていただけるのではないのでしょうか。

引用元：1) <https://boxil.jp/mag/a1607/> 2020年5月9日現在 2) <https://boxil.jp/mag/a3325/> 2020年5月9日現在

謝辞：大阪府立大学中桐先生、(株)三祐コンサルタント崎川氏には本企画セッションにおける講演を快諾していただき、要旨の作成、発表の準備等、本企画セッションへ多大なご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表す。